

平成 26 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

| | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|--|---------------|------------|----------|
| 会計 | 款 | 項 | 目 | 事業コード | 事業名 | |
| 一般 | 10 | 05 | 10 | 0402 | 美術普及活動推進事業 | |
| 総合計画 | 分野 | 人づくり | | | | |
| | 政策 | 3-5 | 芸術文化の振興 | | | |
| | 施策 | 1 | 芸術文化活動の推進 | | | |
| 目的 | 芸術文化の振興のため、美術団体等が実施する活動に対し財政的な支援を行う。 | | | | | |
| 対象 | 市民、美術活動普及団体 | | | | | |
| 意図 | 萬鉄五郎の画業を顕彰するとともに、美術等表現活動の普及と当該活動による地域の活性化を目指す。 | | | | | |
| 事業概要 | | | | | | |
| 1 萬鉄五郎祭関連事業に対する補助 (1)事業主体(被補助団体) 鉄人会(会員数50名) (2)事業内容 ①萬鉄五郎祭の実施(萬鉄五郎の顕彰)・・・式典等 ②美術普及活動の実施・・・写生会、お茶会、美術研修会、美術講座(映写会) (3)参加者・・・鉄人会員、萬遺族関係者、市民、美術愛好家、幼児・小・中学生、美術ボランティア等 | | | | | | |
| 2 街かど美術館開催事業に対する補助 (1)事業主体(被補助団体) 街かど美術館実行委員会 (2)事業内容 土沢地区を中心に東晴山地区、谷内地区及び田瀬地区にエリアを拡大し、店舗、住宅、神社、文化財建造物、空き地等を会場とした現代美術の展覧会 (3)参加者 ①招待作家9名、審査通過コンペ作家43名 計52名・組(自由参加なし) ②一般来場者20,000人、マーケット30,000人、スタッフ延540人、ボランティア | | | | | | |
| 市民参画の有無 [対象外] | | | | | | |
| 市民協働の形態 | | 共催 <input type="radio"/> 後援・協賛 | <input type="radio"/> 実行委員会・協議会 <input type="radio"/> 補助・助成 | 事業協力・協定 委託 | | |
| 活動指標(上記「事業概要」に対応) | | 単位 | 区分 | 25年度(実績) | 26年度(実績) | 27年度(計画) |
| ① 萬鉄五郎祭関連事業の開催件数 | 件 | | 計画 | 5 | 5 | |
| | | | 実績 | 5 | 5 | |
| ② 街かど美術館事業実施日数 | 日 | | 計画 | | 30 | |
| | | | 実績 | | 30 | |
| ③ | | | 計画 | | | |
| | | | 実績 | | | |
| 成果指標(上記「意図」に対応) | | 単位 | 区分 | 25年度(実績) | 26年度(実績) | 27年度(計画) |
| ① 萬鉄五郎祭関連事業参加者数 | 人 | | 目標 | 300 | 300 | |
| | | | 実績 | 247 | 215 | |
| ② 街かど美術館事業来場者数(入込客数) | 人 | | 目標 | | 15,000 | |
| | | | 実績 | | 50,000 | |
| ③ | | | 目標 | | | |
| | | | 実績 | | | |
| 成果指標の達成度 | <input type="radio"/> | 目標値より高い | 概ね目標値どおり | 目標値より低い | | |

| | | |
|--|--|---|
| 成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載) | | |
| 【H26成果指標の設定根拠】 ○街かど美術館事業来場者数(入込客数)は、平成23年度の実績並みとしたが、期間中にはじめてアート&クラフトマーケットを同時開催した相乗効果により、来場者が目標値を大きく上回った。 | | |
| 目的妥当性 | 公共関与の妥当性 | 民間の団体が郷土の先人を顕彰し、美術普及と地域の活性化に貢献しようとする事業であり、負担金及び補助金交付基準要綱E-4に該当し、所要の財政支援を行うことは妥当である。 |
| | <input type="radio"/> 妥当である | |
| | 見直し余地がある 妥当でない | |
| 有効性 | 成果の向上余地 | 各事業主体の底辺を拡大するとともに、市内各種団体等に呼び掛けることにより美術等表現活動に対する関心が高まり、成果の向上が期待できる。 |
| | <input type="radio"/> 向上余地がある | |
| | 向上余地がない | |
| 効率性 | 事業費・人件費の削減余地 | 萬鉄五郎祭及び街かど美術館とも、職員の関与は、事業実施に係る市との連絡調整、市事業と密接な関係のあるイベントの経理事務など必要最小限にとどめている。 |
| | 事業費の削減余地がある | |
| | 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない | |
| 公平性 | 受益と負担の適正化余地 | 事業主体の自己資金、市補助金、その他財団等の助成金により運営されており適正である。 |
| | 受益機会の見直し余地がある | |
| | 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である | |
| 総合評価 | | |
| <p>今回の街かど美術館事業は、これまでのオープンな参加形式を見直し、審査による出品作品(作家)の選考を行った結果、展示作品のレベルアップによる芸術性の高い美術展となり、来場者から高い評価を得た。</p> <p>また、開催エリアを土沢地区を核としながら周辺部に拡大したことは、来場者からも地域住民からも好評であった。</p> <p>この事業は、美術館のあるまちが、美術を媒体として地域おこしにつなげようとする試みであるが、実施主体の財政基盤が脆弱なため継続的な財政支援が必要であること、実施母体である実行委員会の組織強化が欠かせないこと、毎回異なるコンセプトを設定する必要があることなどが大きな課題である。</p> <p>来場者のアンケートでは継続開催の期待が大きいですが、現実行委員会は一旦解散することとし、こうした課題を含め今後の在り方を検討することとなった。</p> | | |

平成 26 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

担当部署 部名 まちづくり部 課名 萬鉄五郎記念美術館 担当係長 伊藤真紀子 内線 42-4402
(単位：千円)

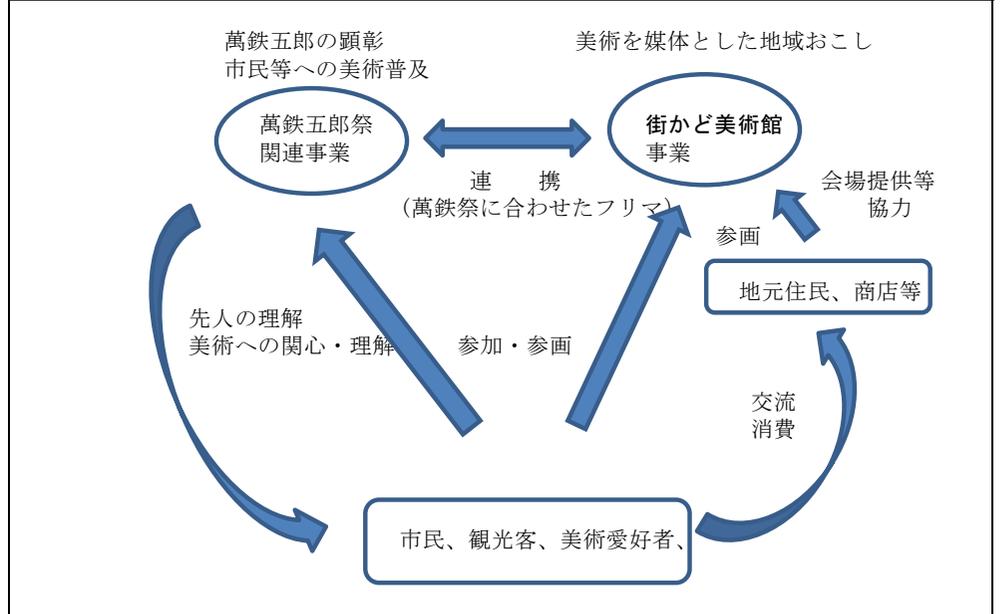
| 会計 | 款 | 項 | 目 | 事業コード | 事業名 |
|----|----|----|----|-------|------------|
| 一般 | 10 | 05 | 10 | 0402 | 美術普及活動推進事業 |

単位：千円

| | | 25年度 決算額(A) | 26年度 決算額(B) | 27年度 現計予算額 | 決算額前年比 (B-A) |
|------|------|----------------|----------------|---------------|-----------------|
| 事業費 | | | 10,250 | | 10,250 |
| 財源内訳 | 国・県 | | 10,000 | | 10,000 |
| | 地方債 | | 200 | | 200 |
| | その他 | | | | |
| | 一般財源 | | 50 | | 50 |

| | | | |
|--|---------|-----|-----------------|
| 事業期間 | ○ 単年度繰返 | 期限定 | [平成 年度 ~ 平成 年度] |
| 部経営方針における目標 | | | |
| 文化の香り高いまちをつくります。 | | | |
| 事業開始の背景・経緯 | | | |
| 萬鉄五郎祭関連事業は、地元美術愛好団体が萬鉄五郎の顕彰のため、昭和56年から開催。まちかど美術館事業は、美術館をまちづくりの資源と位置づけ、美術館と地域住民の協働による美術活動を媒体とした地域おこしイベントとして平成17年から開催。 | | | |
| 事業概要 | | | |
| 1 萬鉄五郎祭関連事業に対する補助 | | | |
| (1)事業主体(被補助団体) 鉄人会(会員数50名) | | | |
| (2)事業内容 ①萬鉄五郎祭の実施(萬鉄五郎の顕彰)・・・式典等 | | | |
| ②美術普及活動の実施・・・写生会、お茶会、美術研修会、美術講座(映画) | | | |
| (3)参加者・・・鉄人会員、萬遺族関係者、市民、美術愛好家、幼児・小・中学生、美術ボランティア等 | | | |
| 2 街かど美術館開催事業に対する補助 | | | |
| (1)事業主体(被補助団体) 街かど美術館実行委員会 | | | |
| (2)事業内容 土沢地区を中心に東晴山地区、谷内地区及び白瀬地区にエリアを拡大し、店舗、住宅、神社、文化財建造物、空き地等を会場とした現代美術の展覧会 | | | |
| (3)参加者 ①招待作家9名 審査通過コンペ作家43名 計52名・組 (自由参加なし) | | | |
| 事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等 | | | |
| ○事業主体構成員の固定化、年齢上昇による柔軟性、機動力が減退(停滞)している。若返りと底辺(地域)の拡大が望まれる。 | | | |
| ○事業資金の確保に常に苦労している。 | | | |

《事業手法の詳細》



事業費等

| | |
|------------------|----------------------------|
| (1) 萬鉄五郎祭関連事業補助金 | (2) 街かど美術館実行委員会補助金 |
| 【収入】 自己資金 21千円 | 【収入】 自己資金 1,859千円 (事業収入等) |
| 市補助金 250千円 | 補助金 36,768千円 (うち市10,000千円) |
| 会費(事業収入) 204千円 | 助成金 800千円 |
| 雑収 50千円 | 寄付金 0千円 |
| 繰越金 48千円 | |
| 計 573千円 | 計 39,427千円 |
| 【支出】 僱事 342千円 | 【支出】 報償費 2,764千円 |
| 遺族招聘費 82千円 | 会場設営費 16,300千円 |
| 宣伝・通信費 43千円 | 旅費滞在費 2,112千円 |
| 事務 26千円 | 人件費 8,452千円 |
| 計 493千円 | 連絡調整費 841千円 |
| | 宣伝記録費 7,071千円 |
| | 事務所費 1,887千円 |
| | 計 39,427千円 |